

130 ゴジュウカラ

(スズメ目)

兵庫県ランク:B

Sitta europaea

繁殖個体群:B 越冬個体群:C 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道では亜種シロハラゴジュウカラが、本州、四国、九州北部では亜種ゴジュウカラが、九州南部では亜種キュウシュウゴジュウカラがそれぞれ留鳥として分布する。兵庫県では局地的ではあるが周年見られる。山地の落葉広葉樹林や亜高山の針葉樹林などの深い原生林に生息し、樹洞やキツツキの古巣などに営巣する。主に樹上の昆虫類やクモ類を採食するが、秋期から冬期には木の実なども食べる。

国内分布

北海道、南千島、本州、隠岐、四国、九州



写真提供:但馬野鳥の会

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、豊岡市、(三田市)、養父市、朝来市、宍粟市、神河町、(佐用町)、香美町、新温泉町 ※県内繁殖有



主要な選定理由

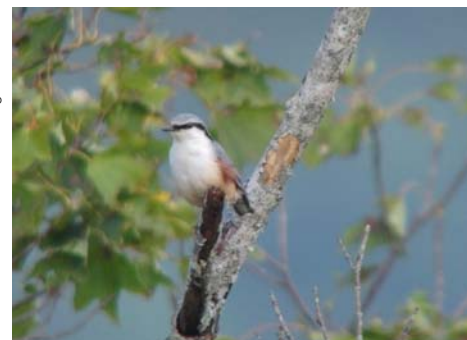
影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

CランクからBランクに変更。
県北部では周年生息し繁殖している。主な生息環境であるブナ林が、近年の開発で減ったことにより個体数が減少している。

保護上の留意点

生息地であるブナ林の保全が重要であるが、本種は、特に古木や大径木が多い森林に好んで生息するので、その保全および大径木の健全な育成に努めることが重要。また最近のブナ林の衰退に伴う本種の生息状況の調査が望まれる。



写真提供:三谷康則